

第4回物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会

平成26年4月25日「第4回物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会」がホテルメトロポリタン仙台において開催された。河村純一多元研所長の開会の辞に続いて、来賓の文部科学省研究振興局学術機関課の瀬戸信太郎学術研究調整官、次いで東北大学の里見進総長から挨拶を頂いた。引き続き拠点本部長の八木康史産研所長から拠点活動概要の報告があり、拠点の目的および活動状況が紹介された。次いで各領域の活動報告が行われた。例年は各領域代表者が、領域概要と一般共同研究の成果を報告してきたが、拠点活動も4年を過ぎ共同研究により数多くの優れた成果が創出されていることを受け、平成25年度活動報告会では5領域の一般ならびに特定共同研究に参画されている研究者2名、合計10名から研究成果が報告された。さらにネットワーク型共同研究拠点の特徴を活かし、産研サテライト会場からインターネットライブ中継を活用し、物質創製開発領域(多元研)ならびに物質機能化学領域(先導研)参画共同研究者から成果が報告され仙台会場から活発な質疑応答も行われた。

拠点本部ならびに共同研究参画者によるポスターセッションの後、東京大学の橋本和仁教授による「科学者は社会からの期待に如何に応えるか、応えられるのか？」と題する約1時間の特別講演が行われ、活発な質疑応答が行われた。最後に開催された意見交換会では、早稲田大学理工学術院教授西出宏之先生をはじめ多くの参加者から活発に幅広い意見の交換が行われた。

今回の活動報告会では、拠点研究者、共同研究者、来賓、一般参加者をあわせて335名(含サテライト会場での参加者)の参加を得た。また、インターネットライブ中継システムを活用し仙台会場と阪大産研サテライトとの双方向の配信、他の3拠点に動画を配信すると共に、拠点ホームページ(http://www.tagen.tohoku.ac.jp/modules/www00/index.php?content_id=102#tab3)からも動画の配信を行い、一般共同研究、特定共同研究成果のより幅広いアピールに取組んだ。このようにネットワーク型共同研究拠点活動4年目の平成25年度活動報告会は、新しい試みを取入れ、拠点活動の効果的な情報発信と今後の拠点活動の質と量のさらなる発展に繋がる充実した会となった。

